

令和5年度 学校評価報告書（総括書）

あま市立七宝中学校

1 総括

(1) 教育目標（学校経営案より）

<p><教育目標> 心豊かで たくましく 創造力のある 人になろう</p>	<p><めざす生徒像> ○深く考え、自ら学び、自己を高める生徒 ○自他のいのちを尊重し、人間性豊かな生徒 ○積極的に心身を鍛え、共に生きぬく生徒 ○地域に目を向け、郷土を愛する生徒</p>
---	--

(2) 本年度の重点努力目標

ア 個を生かす教育の充実

- ㊦ 七つの宝を大切にした教育活動を展開する。①みんなハッピーしゅぴータイム、②先手必勝の挨拶、③心を磨く無言清掃、④自信あふれる返事、⑤絆深める合唱、⑥全力パフォーマンス、⑦かけがえのない命を合い言葉に、その実践力の定着を図る。
- ㊧ ICTを活用し、自ら学び自ら考える力の育成を図り、Society5.0時代を生き抜く生徒を育成する。
- ㊨ 特別な支援を必要とする生徒の指導について、校内の支援体制を充実し、教育相談活動などで生徒理解に努め、問題行動や学校不適應の予防に努める。

イ 豊かな心を育てる教育の充実

- ㊦ 生徒指導の充実を図り、「正義がとおる学校づくり」を推進する。
- ㊧ 心に響く道徳授業の工夫や総合的な学習、特別活動での体験的活動の充実などで、「自他の命を大切に作る心」と「思いやりの心」を育む。
- ㊨ 生徒会活動や部活動などを通して、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成する。

ウ 健康・安全教育の充実

- ㊦ コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症拡大防止に向けた対策を万全に行う。
- ㊧ 生活の中から健康課題を見つけ、その課題の解決に向けて努力する生徒を育てる。
- ㊨ 交通ルールへの遵守など「自分の命は自分で守る」という意識を高め、実際に行動できる生徒を育てる。

エ 家庭や地域社会との連携

- ㊦ 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の活動を充実させ、地域の各種団体やPTA等と連携を図りながら、積極的に地域の教育力を活用する。
- ㊧ 家庭や地域と連携し、挨拶の励行や交通マナーの向上の取組を進める。また、地域の行事に積極的に参加できるように呼びかけ、地域の信頼に応える。
- ㊨ 学年だよりや学校ホームページなどを通じて学校の情報を家庭・地域に発信し、学校の教育活動の周知に努める。

オ 多忙化解消に向けた取組

- ㊦ タイムカードを活用し、教職員自らが勤務時間の具体的把握に努め、効率のよい執務実現に向けた意識化を図る。
- ㊧ 一斉退校日や、学年退校日、自主退校日を設定することで、在校時間削減の一助とする。
- ㊨ 一部の教職員に、過重な負担がかからないような適正な校務分掌の割り振りを行うとともに、行事や会議の精選について引き続き検討し改善していく。

2 自己評価の実施体制

- (1) 調査時期 令和5年11月1日～12月22日
- (2) 調査項目 別紙アンケート参照
- (3) 調査対象 有効回答者数／対象者数
 - ・児童生徒 355名／全402名
 - ・保護者（学校運営協議会委員含む）155名／全369名
 - ・教職員 27名／全27名 計537名

3 調査結果【資料として添付】

4 考 察【児童・生徒、保護者、教職員、地域等の総括的考察】

- (1) 「自分には長所がある」「自分が成長したと感じる」と回答した生徒の割合が、昨年から高まった。学年にかかわらず、ほとんどの生徒は、思いやりの心を大切にしていることが分かった。部活動や行事に意欲的に活動している生徒が多かった。交通ルールを守ろうとしている生徒の割合は昨年よりも高まった。
- (2) タブレット端末を活用して意欲的に授業を工夫している教師の割合は、昨年よりも高まったが、前向きに活用できていない教師も約2割いた。「分かりやすい授業」に向けて意欲的に工夫していると回答した教師の割合は昨年から大きく高まったが、生徒、保護者の実感を伴っていない傾向があった。家庭でのスマホなどの利用については、ルールを守れていない現状が昨年から引き続きうかがえた。8割程度の生徒は、学校は楽しいと回答しているが、当てはまらないと回答する生徒も一定数いた。
- (3) 家庭への連絡については、教師と保護者で認識に開きがあった。困っているときに先生に相談しにくいと感じている生徒の割合が高かった。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 思いやりの気持ちを育んだり、自己肯定感を高めたりすることができた。
- (2) 交通ルールを守ることへの生徒の意識が高かった。自転車通学区域を試行的に撤廃しているが、規範意識の向上につながった一因と捉えることができる。
- (3) 行事や部活動に熱心に取り組める環境が整い、意欲的に活動できた。

《課題》

- (1) 先生に相談できると感じている生徒の割合が高まった学年もあったが、多くの生徒は先生に相談しにくいと感じている。自己肯定感や自尊感情の高まりが見られない生徒は3割程度いる。
- (2) 家庭への連絡については、限られた時間の中で工夫はしているものの、生徒の様子を十分に家庭に伝えられていない。
- (3) 分かりやすい授業を工夫しようという教師の前向きな姿勢はあるものの、生徒の実感が伴っていない。

6 改善策

- (1) 好事例を校内で共有し、温かな学年、学級経営につながるよう研修を深め、「相談しやすい学校」「楽しい学校」につなげる。自己肯定感や自分の成長をさらに高め、実感を伴うことができるように、しっぴータイムの取り組みを継続する。また、生徒へのフィードバックや価値づけの工夫について、外部講師を招いて助言をいただく。
- (2) タブレット端末の利用を促進するだけでなく、「主体的、対話的で深い学び」に向けて、授業改善についての研修に積極的に参加する。授業のあり方を見直すとともに、ゆとりをもった授業計画を立てられるように学校の全体計画を見直す。
- (3) 部活動指導後や授業の空き時間を活用し、家庭連絡や家庭訪問を行っているが、学年内の連携を強め、丁寧に家庭とつながることができるようにする。